

ブドウ「巨峰」の細根量と着色					
<p>[要約] 「巨峰」の細根量と着色の間には高い正の相関がみられ、細根量が多い樹ほど着色が良く、その分布は表層部分に多い。</p>					
佐賀県果樹試験場・落葉果樹研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果 樹	専 門	栽 培	対 象	ブドウ

[背景・ねらい]

佐賀県におけるブドウ栽培は水田転換が多い。水田転換園は地下水が高く、湿害を受けやすい環境のため根傷みが多く、根量が少ないことが着色に影響していると考えられる。そこで、細根の量や分布が「巨峰」の着色に与える影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「巨峰」の細根量と着色の間には高い正の相関がみられ、細根量が多い樹ほど着色が良い（図1）。
2. 着色良好樹の細根の分布は不良樹に比べ、30～40cmの深さには少なく、0～10cmの表層を中心とした浅い位置に多い（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 水田転換園では、畦立て等を行って排水の促進を図る。
2. 着色向上のためには適正な土づくり、肥培管理等で表層部を中心に細根量の増加を図る。
3. 着果過多は着色不良の大きな要因となるので必ず適正着果量を守る。

[具体的データ]

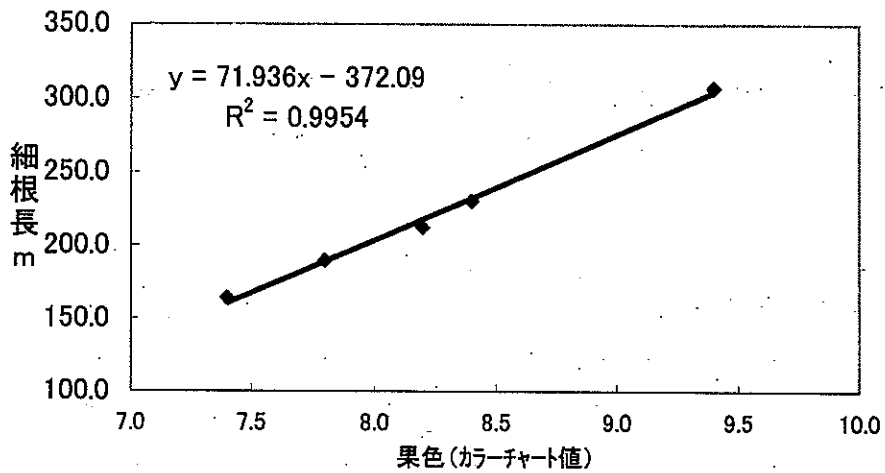


図1 ウイルスフリー巨峰における細根量と果色の関係 (1999年)

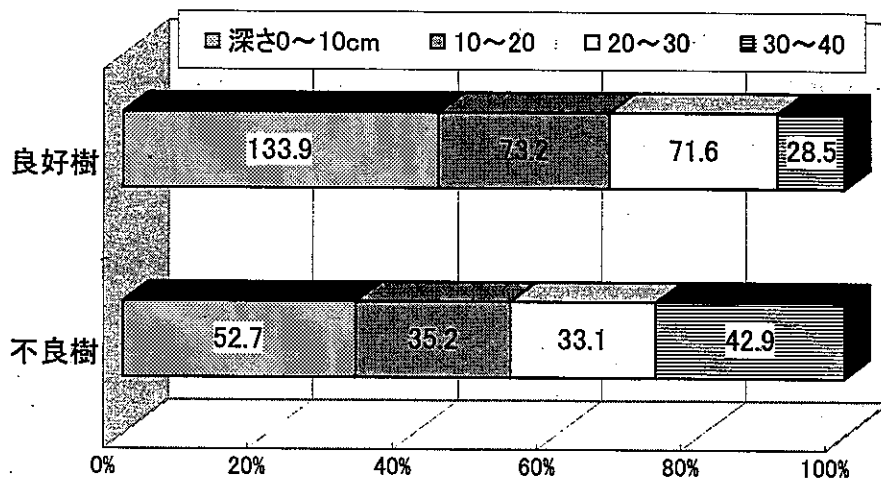


図2 着色良好樹と不良樹の細根の層位別分布割合 (1999年)

[その他]

研究課題名：ウイルスフリー巨峰の生育特性解明と高品質大粒果生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成6～12年

研究担当者：福田浩幸、松瀬政司、稲富和弘

発表論文等：平成11年度落葉果樹試験研究成績概要集・栽培関係2